

取扱説明書

油圧送り式粉砕機

HG-GS-15SF/HG-GS-15SFE

燃料

無鉛レギュラーガソリン



エンジンオイルは
入っていません。



油圧オイルは
入っていません。

★ご使用前に、必ず取扱説明書をお読みにになり、内容を理解してからご使用ください。



TOP	1
表紙	1
はじめに	4
安全上のご注意	4
製品をご愛顧いただくために	5
安全にお使いいただくために	6
主要諸元	8
各部の名称	9
梱包部品一覧	11
組立て	12
組立て	12
ホッパー（投入口）の取付け	13
安全装置の配線	14
シュータ（排出口）の取付け	15
タワーヒッチの取付け	17
リコイルガードの取付け	18
送り力調整コントローラの取付け	19
回転方向切替コントローラの取付け	21
安全バーの調整	23
バッテリーの配線方法（セルスターター）	25
取扱い	26
安全装置	26
回転方向切替レバー	27
送り力調整レバー	28
シュータ（排出口）角度・向きの変え方	29
運転前の点検	30
運転前の点検	30
燃料の点検・補充	31
エンジンオイルの点検	32
油圧オイルの点検	33
ホッパー、シュータの点検	34
潤滑油やグリスの塗布	35
運転操作の仕方（HG-GS-15SFの場合）	36
運転操作の仕方（HG-GS-15SFの場合）	36
エンジンのかけ方	37
エンジンの止め方	40
運転操作の仕方（HG-GS-15SFEの場合）	41
運転操作の仕方（HG-GS-15SFEの場合）	41
エンジンのかけ方	42
エンジンの止め方	46
運転操作の仕方	47
運転操作の仕方	47
緊急停止	48
設置について	49
粉碎作業	50
粉碎作業終了	52
粉碎物についての注意事項	53
枝木が詰まった時	54
移動の仕方	56
点検・整備の仕方	57
点検・整備の仕方	57
燃料の抜き方	58
エンジンオイルの交換・補充	59
油圧オイルの交換・補充	60
エアクリーナーの清掃・交換	62

グリスの塗布	63
点火プラグの点検・清掃	64
刃の交換	65
回転刃ベルトの張りの調整	68
回転刃ベルトの交換	69
遠心クラッチの点検	71
油圧ポンプのベルト交換	72
枝木が詰まった時	74
タイヤの点検	76
長期間使用しない時	77
困ったときの対処法	78
困ったときの対処法（点火プラグの点検）	80
保証内容について	82
お客様ご相談窓口	83
修理協力店	85
カスタマー・サポート	86

はじめに

このたびはお買い上げいただき誠にありがとうございます。

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

誤った使い方をすると、重大な事故につながるおそれがあります。本製品を使用する前に、この取扱説明書をよく読み、内容を十分に理解してください。また、各ページの警告・注意事項も飛ばさず、必ずお読みください。

安全上のご注意

※お使いになる人や他人への危害・財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

- 表示と意味をよく理解してから、本文をお読みください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見ることができる所に、必ず保管してください。
- すべて安全に関する内容です、必ずお守りください。

■表示内容を無視して、誤った使い方をしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「**死亡または重症を負う恐れがある**」内容です。



注意

この表示の欄は、「**軽症、物的損害、故障が生じる恐れがある**」内容です。

■お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



禁止

このような絵表示は、してはいけない「**禁止**」内容です。



強制

このような絵表示は、必ず実行していただく「**強制**」内容です。

製品を長くご愛顧いただくために

取扱説明書に従った正しい取扱や定期点検、保守を行ってください。注意事項に従わず何らかの損害・故障が発生した場合、保証の対象外となりますのでご注意ください。

安全にお使いいただくために

誤った使い方をすると、重大な事故につながるおそれがあります。本製品を使用する前に、この取扱説明書をよく読み、内容を十分に理解してください。また、各ページの警告・注意事項も飛ばさず、必ずお読みください。

油圧送り式粉碎機に係る安全事項



警告

<p>禁止</p>	<ul style="list-style-type: none">・本機は、枝木を粉碎するための機械です。指定された用途以外には使用しないでください。・燃料の臭いがする場合、運転をしないでください。爆発の危険があります。・排気ガスは吸入しないでください。エンジンの排気ガスには人体に有毒な成分が含まれています。特に一酸化炭素は無色無臭で非常に強い毒性があり、吸入すると死亡の恐れがあります。・エンジンが熱いうちは、給油しないでください。・換気の悪い場所や燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。・運転時、給油時は、喫煙など火気を発生させないでください。・可動している部分の近くに手または足を入れないでください。・未成年者の単独使用は禁止です。保護者等の監督下で作業してください。・改造、分解は絶対に行わないでください。安全性・信頼性が低下したり故障の原因になります。また、弊社の保証サービスは一切受けられなくなります。・正しい操作を知らない人、子供、妊娠中の方には操作をさせないでください。・成年者でも、操作の仕方がよく分からない場合は、独自の使用をしないでください。・運転中は、回転部や可動部に手足や衣類を近づけないでください。触れると巻き込まれて重大なけがや死亡事故につながるおそれがあります。・運転中は絶対投入口、排出口を覗き込んだり、排出口の下に入らないでください。・点火源となるような機器の近くに保管しないでください。燃料の蒸気へ引火する恐れがあります。・本機を密閉された場所に燃料を入れたまま放置しないでください。燃料が蒸発し、爆発の危険があります。
<p>強制</p>	<ul style="list-style-type: none">・周囲の動植物等にも排気ガスが当たらないように注意をしてください。・給油時は、付近にタバコ等の火気の無いことを確認してください。燃料は非常に引火しやすく、気化した燃料は爆発の危険があります。・給油時、燃料タンクの給油限界位置を超えないようにしてください。温度上昇によって燃料が膨張し、漏れることがあります。・給油は、身体に帯電した静電気を除去してから行ってください。引火の恐れがあります。・給油中にこぼれた燃料はきれいに拭きとってください。燃料を拭いた布等は、火災に注意して処分してください。・燃料を衣服にこぼした場合、直ちに衣服を着替えてください。衣服へ引火する危険があります。・燃料タンクキャップは確実に閉めてください。運転中にこぼれると火災の恐れがあります。・始動前点検を実施してください。・使用前には、可動部分の位置及び締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他動作に影響を及ぼす全ての箇所に異常がないか確認してください。・運転前に燃料漏れがないか点検・確認してください。・エンジンを始動するときは、周囲に人や動物がないことを確認してください。・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどをすることがありますので注意してください。・使用中に異常音、異常振動があったときは、直ちに使用を中止し、点検、修理を行ってください。・点検整備を行なう場合はエンジンを停止してください。エンジンが不意に始動すると、思わぬ事故につながる恐れがあります。・点検整備はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン本体やマフラー部のほか点火プラグの温度も高くなっており、やけどの恐れがあります。・破損した部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。・修理の知識や技術のない方は、事故やけがの原因となるおそれがあるため、自分で修理しないでください。・自動車で運搬するときは、燃料タンクの燃料を抜き、燃料コックを閉じてください。振動等により燃料が漏れることがあります。・長期間使用しない場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のないところに保管してください。・本機をご使用になる前に、エンジンの始動、停止の仕方を覚えてください。・子供の手の届かない安全な場所に保管してください。・ご使用前にこの説明書をお読みになり取扱の注意事項をよく理解したうえでご使用ください。



注意

<p>禁止</p>	<ul style="list-style-type: none">・古い燃料は使用しないでください。
<p>強制</p>	<ul style="list-style-type: none">・燃料は無鉛レギュラーガソリンを使用してください。・定期的にエンジンオイルを交換してください。・部品交換は、純正部品を使用してください。・給油中、燃料タンク内に雪や水、ホコリが入らないように注意してください。・使用中に異常音、異常振動があったときは、直ちに使用を中止し、点検、修理を行ってください。・シートカバーなどは機械が十分冷めてからかけてください。・定期点検整備を行ってください。

油圧送り式粉碎機の作業に係る安全事項

警告

 <p>禁止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体の調子が悪い時や、判断力に影響するような酒類、薬物を服用しているときは、使用しないでください。 ・ 運転中に点火プラグキャップに触れないでください。感電する恐れがあります。 ・ 動作中に回転部分に顔や手足を近づけないでください。 ・ ご使用時は、使用者から15m以内は危険です。人やペットが入らないようにしてください。 ・ 夜間、悪天候時、霧の発生時など、視界が良くないときは使用しないでください。 ・ 足元が滑りやすい、転倒しやすい場所では使用しないでください。 ・ 舗装地、砂利、その他硬い地面や急傾斜地では使用しないでください。振動で本体が動き思わぬ事故につながる恐れがあります。 ・ 運転中は絶対に排出口の前に立たないでください。 ・ 気温が高い時の作業は避けてください。 ・ 燃料タンク内に燃料を入れたまま運搬、保管しないでください。 ・ 機械の稼働部分に絡まるような衣服、装飾品、タオルなどは着用しないでください。
 <p>強制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水平で安定した場所に設置してください。 ・ 運転中は、排気ガスに十分注意してください。 ・ 停止中でも、直接刃物に触れないでください。怪我をすることがあります。 ・ エンジンの周りに、草や木くずなど燃えやすいごみを蓄積させないでください。 ・ 使用前に接続部の緩み、ネジの緩みや欠落した部品がないこと、亀裂、摩耗、破損のないこと等、各部に異常がないことを確認してください。 ・ 長い髪は束ね、帽子やヘルメットでカバーしてください。 ・ 適切な間隔で休憩をとってください。 ・ 本機から離れるときは、必ずエンジンを停止してください。 ・ 移動するときは、エンジンを停止してください。 ・ 危険を感じたり、予測される場合も、必ずエンジンをすぐに停止してください。 ・ 持ち運ぶときは、エンジンを停止し、燃料タンクから燃料を抜取ってください。

注意

 <p>禁止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ エンジンがかかっている状態で本製品から離れないでください。
 <p>強制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業前に回転刃に欠け、ヒビや曲がり、破損がないか点検してください。 ・ 作業中にベルトの異音や異臭、異常な振動があった場合には、速やかにエンジンを停止し、回転部が完全に停止してから詰まりを除去し、異常がないか調べてください。異常があった場合には、完全に補修した後でなければ本機を再始動しないでください。 ・ すべりにくい安全靴、防振手袋、保護メガネ、ヘルメット、耳栓、防塵マスクなどの作業に適した服装を心掛けてください。 ・ 万一来電、救急箱、タオル、外部連絡用電話を用意してください。 ・ 本機を長時間使用しないときは、取扱説明書に従って保管してください。

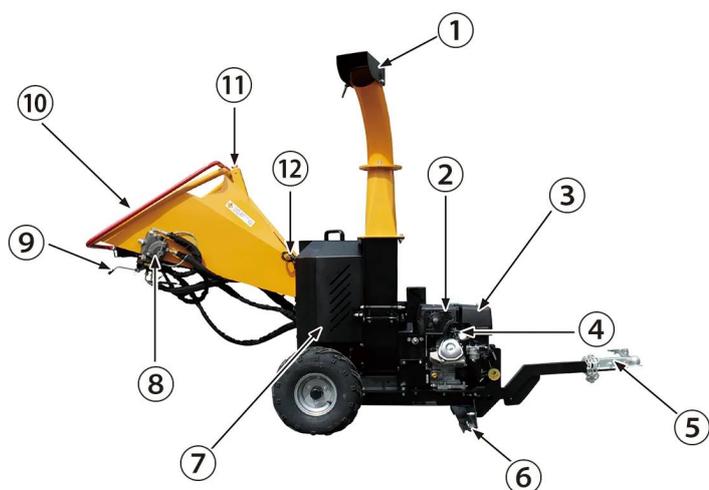
主要諸元

モデル名	HG-GS-15SF	HG-GS-15SFE
エンジン形式	4 ストローク0HV エンジン	
エンジン馬力	15HP	
総排気量	420cm ³	
粉碎可能な枝径	最大120mm ※材の硬さ・曲がり具合・繊維の密度などで変わります。	
粉碎可能な横幅	最大200mm	
ブレード回転速度	2250min ⁻¹ (rpm)	
始動方式	リコイル式	セル式/リコイル式
燃料	無鉛レギュラーガソリン	
燃料タンク容量	5.4L	
燃費 (無負荷)	≤ 4.13L/h(≤374g/kwh)	
エンジンオイル	SAE10W-30	
エンジンオイル容量	1.1L	
油圧オイル	作動油 (ハイドロリックオイル油圧用オイル32番)	
油圧オイル容量	4.0L	
刃 (チップナーナイフ)	2枚	
三角刃 (ハンマーナイフ)	5枚1組×2	
互換点火プラグ	BPR7ES(NGK)	
重量	約325kg	約333kg
本体サイズ (幅×奥行き×高さ)	約1010×3000×1780mm ※タワーヒッチ含む	
タイヤサイズ	16×8-7	

◎弊社は、顧客満足度100%を目指し、日々製品（部品やカラーも含め）の改良を行っています。
そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。
また、取扱説明書に最新情報が反映されない場合があります。どうぞご理解・ご了承ください。

各部の名称

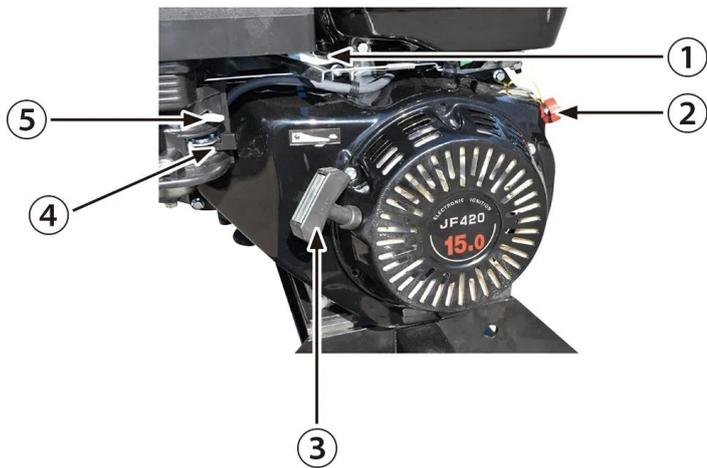
※本取扱説明書に掲載されている写真はプロトタイプのため、本製品と仕様が異なる場合があります。



- ①シュータ (排出口)
- ②マフラー
- ③エアクリナー
- ④点火プラグキャップ
- ⑤タワーヒッチ
- ⑥スタンド
- ⑦側面カバー
- ⑧送り力調整コントローラ
- ⑨回転方向切替レバー
- ⑩ホッパー (投入口)
- ⑪緊急停止ボタン
- ⑫緊急停止配線

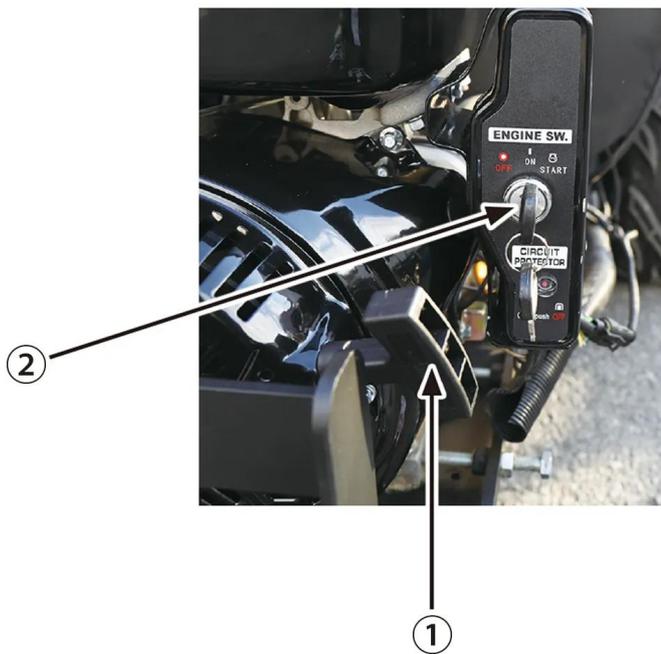


- ①把手
- ②上部カバー
- ③安全バー
- ④油圧ホース
- ⑤油圧シリンダー
- ⑥回転刃室カバー
- ⑦燃料タンク
- ⑧ベルトカバー



HG-GS-15SF

- ①アクセルレバー
- ②エンジンスイッチ
- ③リコイルスターター
- ④燃料コック
- ⑤チョークつまみ



HG-GS-15SFE

- ①リコイルスターター
- ②セルスターター

梱包部品一覧

1. ユニットとすべてのアクセサリを慎重に箱から取出し、全てのユニット・アクセサリに不足・問題がないことを確認してください。
2. 製品を注意深く点検し、輸送中の損傷がないことを確認してください。万が一損傷が見受けられた場合は、運送会社に1週間以内に連絡をしてください。
3. 梱包材を慎重に検査し、使用する前に廃棄しないでください。不足している場合は、お手数ですが弊社までご連絡ください。



警告

不足しているものがある場合は、不足している部品を入手するまで使用しないでください。

<p style="text-align: center;">A. 本体</p> 	<p style="text-align: center;">B. シュータ (排出口)</p>  <p style="text-align: center;">ヒッチボールのサイズは 2インチ (50mm) に対応</p>
<p style="text-align: center;">C. タワーヒッチ</p> 	<p style="text-align: center;">D. ホッパー (投入口)</p> 
<p style="text-align: center;">E. リコイルガード</p> 	<p style="text-align: center;">F. プラゲレンチ</p> 

※製造時期により部品の形状、内容物に変更になる場合や本体に取付済みの場合があります。
 ※上記写真はプロトタイプのため、製品仕様と異なる場合や部品が本体に取付済みの場合があります。

■ご用意いただくもの

運転する場合に必要なもの

- ・無鉛レギュラーガソリン
- ・4ストロークエンジンオイルSAE10W-30
- ・作動油 (ハイドロリックオイル32番)
- ・漏斗 (じょうご)

組立てに必要なもの

- ・8mm、10mm、16~19mmスパナまたはレンチ

点検・整備に必要なもの

- ・六角レンチ ・ヒートガン ・ワイヤブラシ
- ・13mm、14mm、16 ~19mmスパナまたはレンチ

組立て

組立て



- 取扱説明書をよく読んで正しく取付けてください。
- 作業は自身や周囲の確認をしながら安全に行ってください。
- 組立て、運搬は2人以上で行ってください。
- 組立て時は、手袋、長袖シャツなどの保護具を使用してください。
- 平坦で固い地面の上で組立て作業を行ってください。

組立て

ホッパー（投入口）の取付け

本体にホッパー（投入口）を取付けます。

1

本体に仮留めしている平ワッシャ、スプリングワッシャ、ナット（17mm）を一旦取外します。



注意

ナット類を取外しの際、粉碎室に落とさないよう十分ご注意ください。

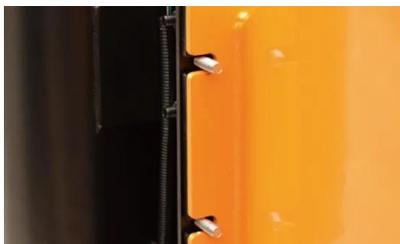
2

本体ホッパー（投入口）取付位置のヒンジ（メス）にホッパー（投入口）のヒンジ（オス）を挿込みます。



3

本体ホッパー（投入口）取付ボルトに、平ワッシャ、スプリングワッシャ、ナットを取付け、スパナ（17mm）等で締付けます。



組立て

安全装置の配線

1

本体から出ているコードのコンネクタと、ホッパー（投入口）から出ているコードのコンネクタを接続します。2カ所接続します。



組立て

シュータ（排出口）の取付け

本体にシュータ（排出口）を取付けます。

1

本体シュータ（排出口）取付位置に仮留めしているボルト（16mm）・平ワッシャ、スプリングワッシャ、ナット（17mm）を一旦取外します。



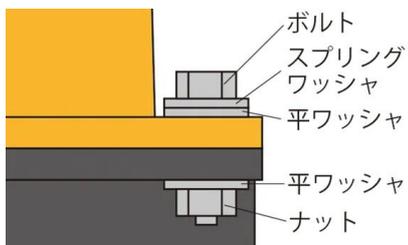
2

本体のシュータ（排出口）取付口にシュータ（排出口）を乗せ、取付穴を合わせます。



3

ボルトにスプリングワッシャ、平ワッシャを通し、上から取付穴に挿込み、下から平ワッシャ、ナットで留めます。



4

スパナ等で4カ所を均等にしっかり締付けます。



5

排出方向を決め、17mmのスパナ等で4ヵ所を均等にしっかり締付けます。



組立て

タワーヒッチの取付け

本体に牽引用のタワーヒッチを取付けます。

1

タワーヒッチに仮留めしているボルト（16mm）・平ワッシャ、ナット（17mm）を一旦取外します。

2

本体の取付穴とタワーヒッチの取付穴を合わせ、ボルトに平ワッシャを通し、穴に通します。



3

平ワッシャ、ナットを取付け、スパナ等で締付けます。



組立て

リコイルガードの取付け

本体にリコイルを保護するガードを取付けます。

1

リコイルガードに仮留めしているボルト（18mm）、スプリングワッシャ、平ワッシャ、ナット（19mm）を一旦取外します。



2

本体取付穴とリコイルガードの取付穴を合わせ、ボルトにスプリングワッシャ、平ワッシャを通し挿込み、反対側からナットで固定し、スパナ等で締付けます。



組立て

送り力調整コントローラを取付け

ホッパー（投入口）に送り力調整コントローラを取付けます。
※製品版ではホースの保護のためカバーが施されています。



1

各油圧ホースのシールテープを巻いている部分以外は、コントローラに仮留めされています。
仮留めのホースを一旦取外すことで本体に取付けやすくなります。

2

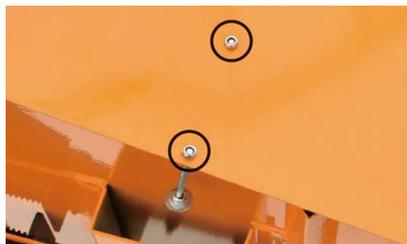
ホースを取外す前に必ず印をつけ、取付けの際間違わないようにしてください。



工場でオイルを入れて試運転しているため、ホース内に若干オイルが残っている場合があります。ホースを取外す際、ホースよりオイルがたれることがありますので、床に使い古しの布などを敷いて行ってください。

3

ホッパー（投入口）に仮留めしている外側の平ワッシャ、ナット（10mm）を一旦取外します。
※ホッパー内にボルト類を落とさないようご注意ください。



4

ホッパー内側のボルト（8mm）、平ワッシャを押さえながら、外側から平ワッシャを通し、コントローラをセットし、平ワッシャ、スプリングワッシャ、ナットで固定します。



5

取外した油圧ホースをもとに戻します。



組立て

回転方向切替コントローラの取付け

ホッパー（投入口）に回転方向切替コントローラを取付けます。
※製品版ではホースの保護のためカバーが施されています。



1

各油圧ホースのシールテープを巻いている部分以外は、コントローラに仮留めされています。
仮留めのホースを一旦取外すことで本体に取付けやすくなります。

2

ホースを取外す前に必ず印をつけ、取付けの際間違わないようにしてください。



 注意

ホースを取外す際、ホースよりオイルがたれることがありますので、床に使い古しの布などを敷いて行ってください。

3

ホッパー（投入口）の底部分奥側に仮留めしているボルト、スプリングワッシャ、平ワッシャ、ステーを一旦取外します。



4

コントローラをホッパー下のステイに取付け、各ホースを接続します。



5

下にたるんでいる油圧ホースを持ち上げ、ステーにボルト、スプリングワッシャ、平ワッシャで固定します。（ホースは2本程度）



組立て

安全バーの調整

ホッパー（投入口）の回りに緊急時にエンジンを止める安全バーがあります。

安全バー



この安全バーの押し込み量、硬さを調整することができます。
※初期設定では、**押し込み量：大、硬さ：最大**に設定されています。



1

ホッパー下の○部分のボルト、ナットを緩めることで調整ができます。



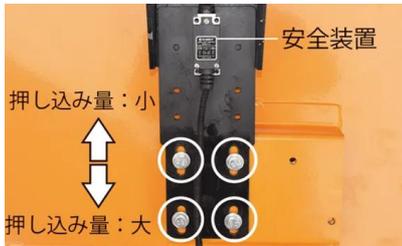
2

ボルト、ナットを緩めることで硬さを調整できます。（緩め過ぎに注意）



3

○部分のボルトを緩めることでステーが前後に移動できます。



4

Aの隙間が小さいと安全バーを少し押し下げただけで、安全装置が働きます。
Aの隙間が大きい場合、安全バーを下まで押し下げないと安全装置が働きません。



組立て

バッテリーの配線方法（セルスターター）

※この配線方法は、HG-GS-15SFEのみ必要です。

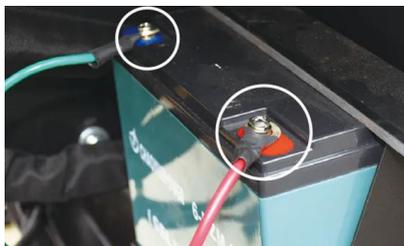
1

本体下側から出ている赤と緑の線を確認します。



2

赤、緑の順番で接続をします。



配線は、念のため手袋着用で行ってください。

取扱い

安全装置

1

回転刃室カバーや上部カバーが開いているときは、安全装置が働き、エンジンがかかりません。エンジンをかける際は、カバーが確実に閉じていることを確認してください。



2

緊急の場合は安全バーを強く押し下げ、エンジンを停止させます。再度エンジンをかける場合は、安全バーを押し上げ解除してください。



3

緊急の場合は、緊急停止ボタンを押すことでエンジンを停止させることもできます。再度エンジンをかける場合は、緊急停止ボタンを時計回りに回して解除してください。



警告

安全装置は絶対に無効にしないでください。

取扱い

回転方向切替レバー

1

レバーを操作することで正回転、逆回転が可能となります。

逆回転



ニュートラル



正回転

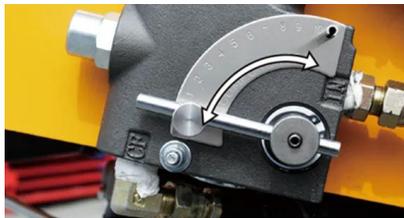


取扱い

送り力調整レバー

1

レバーを操作することで速度の調整が可能となります。
※トルク（材料を送り込むための力）重視のため、3～10までの速度の変化はありません。



0 1—3———10
停止 低速 中速（※）

取扱い

シュータ（排出口）角度・向きの変え方

1

ナットとノブレバーを緩め、角度を調整します。調整が終わったら締付けます。



2

シュータの中間部分のナット（17mm）を緩め、向きを調整します。調整が終わったら締付けます。



運転前の点検

運転前の点検



- ・ エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
- ・ 燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- ・ 運転時、給油時は、喫煙など火気を発生させないでください。



- ・ 燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して、屋外の換気の良い場所で行ってください。
- ・ 燃料をこぼさないように注意してください。所定のレベルを超えて補給しないでください。
- ・ 燃料がこぼれた場合は、直ちに拭取ってください。
- ・ 燃料は、無鉛レギュラーガソリンを使用してください。
- ・ 燃料キャップは確実に閉めてください。
- ・ 長期間保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のない所に保管してください。
- ・ 給油中、燃料タンク内にホコリや水が入らないように注意してください。

運転前の点検

燃料の点検・補充

使用燃料	自動車用無鉛ガソリン (レギュラーガソリン)
タンク容量	5.4L

燃料（無鉛ガソリン）の量を点検します。
出荷時が入っていません。

■点検手順

1

燃料タンクキャップを取外し、液面を見て残量を確認します。



2

少ないときは上限の位置まで補給します。

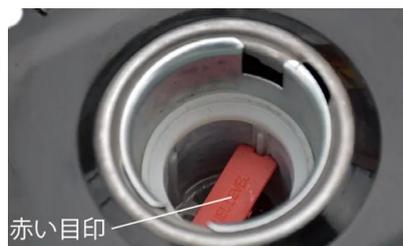
3

点検後、燃料キャップをしっかりと閉めます。

■給油方法

1

無鉛ガソリンを少しずつこぼさないように、上限（赤い目印）の位置まで給油します。



2

給油が終わったら燃料キャップをしっかりと閉めます。

運転前の点検

エンジンオイルの点検

エンジンオイルは出荷時には入っていません。

必ず給油してください。また、工場で試運転をしているため、若干オイルが内部に残っている場合がありますので、給油の際は、こまめにオイルゲージで確認しながら給油してください。

■点検手順

1

本体を水平な場所に移動させ、オイル給油キャップを取外し、オイルゲージに付着したオイルを布などで拭取ります。



2

オイル給油キャップを一旦締付け、再度取外します。

3

オイルが、オイルゲージのオイル量範囲（中央）まであるか点検します。



4

オイル量が少なくなるときは、新しいオイルを補給します。

推奨オイル	4 ストロークガソリンエンジン専用 100%化学合成油SAE10W-30 ・寒冷地は5W-30
オイル容量	1.1L

運転前の点検

油圧オイルの点検

油圧オイル（作動油）は出荷時には入っていません。

必ず給油してください。また、工場で試運転をしているため、若干オイルが内部に残っている場合がありますので、給油の際は、こまめにオイルゲージで確認しながら給油してください。

■点検手順

1

本体を水平な場所に移動させ、オイルゲージを抜き取り、布などで拭取ったあと、オイルゲージキャップを取付け一旦締付けます。



2

再度オイルゲージを抜き取りオイル量を確認します。

3

オイルが、オイルゲージのオイル量範囲（上限）まであるか点検します。



適正量はゲージの上限です

4

オイル量が少ないときは、新しいオイルを補給します。



使用オイル	ハイドロリックオイル 油圧用オイル32番
オイル容量	4.0L

運転前の点検

ホッパー、シュータの点検

異物、枝木などを確認します。

■点検手順

1

ホッパー（投入口）、シュータ（排出口）に異物、枝木などが入っていないことを、棒などを使って確認します。

2

異物や枝木などが残っている場合は、取除きます。



ホッパー（投入口）、シュータ（排出口）には絶対手を入れないでください。

運転前の点検

潤滑油やグリスの塗布

可動部部分には、使用前に潤滑油やグリスを塗布する習慣をつけましょう。（点検・整備の仕方「グリスの塗布」を参照）

運転操作の仕方 (HG-GS-15SFの場合)

運転操作の仕方 (HG-GS-15SFの場合)



警告



禁止

- ・燃料を補給した場所でエンジンを始動しないでください。
- ・換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
- ・ホッパー（投入口）に何も入っていないことを確認してください。
- ・エンジン始動と同時に刃が動きますので注意してください。
- ・エンジン始動と同時に排出口からチップが排出されることがありますので注意してください。
- ・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。やけどをすることがありますので高温部に触れないでください。



強制

- ・回転している部分の近くに顔を近づけたり、手または足を入れないでください。
- ・平坦な場所で作業を行ってください。
- ・エンジン始動後、異常を感じたり、予測される場合はすぐにエンジンを停止してください。
- ・本機から離れるときは必ずエンジンを停止してください。
- ・少しの移動でもエンジンを停止してください。



注意

エンジンを始動するときは、周囲に人や動物がいないことを確認してください。

運転操作の仕方 (HG-GS-15SFの場合)

エンジンのかけ方

出荷時には燃料、エンジンオイル、油圧オイルは入っていません。
給油後に操作をしてください。

1

アクセルレバーを、「うさぎマーク」と「かめマーク」の中間にします。



2

チョークつまみを左いっぱい（閉）にし、燃料コックを右いっぱい（ON）にします。



3

エンジンスイッチを「ON」にします。



4

本機をしっかり保持し、リコイルスターターロープを引きます。
※ロープを引き出すと止まる位置があるので、そこから素早く引きます。
おおよそ60～70cm引いてください。（ロープは一杯に引ききらないでください。）引きが少ないとエンジンはかかりません。



何度もチョークを閉じたままリコイルスターターロープを引くと、点火プラグを濡らしてしまいます。万が一、濡らしてしまった場合は、「困ったときの対処方法（点火プラグの点検）」をご覧ください。



リコイルの引き方ポイント



- ①良い例：約70cm引いている所。
- ②良い例：穴に対してロープが真っ直ぐ。
- ③悪い例：抵抗がありエンジンがかかりにくく、ロープが摩擦で切れます。

■エンジンがかかったら

1

チョークつまみを右（開）に戻します。



2

1～2分程度暖気運転を行い、運転状況を確認します。

3

暖気運転の後、アクセルレバーを「うさぎマーク」左側にします。



粉碎作業を行います。（運転操作の仕方「粉碎作業」を参照）



- ・ 粉碎作業を行う場合は、高速回転（アクセルレバーを左側）で行ってください。
- ・ 作業を中断するときは、その都度アクセルレバーを右側にしてください。

運転操作の仕方（HG-GS-15SFの場合）

エンジンの止め方

1

すぐにエンジンを止めずに空運転を1～2分行い、内部の粉碎カスを排出させます。

2

エンジンスイッチを「OFF」にします。

3

燃料コックを「OFF」にします。



エンジンがかからない時

緊急停止ボタンや安全バーが解除されていないとエンジンはかかりません。上記確認してもかからない場合は、点火プラグが燃料で濡れている可能性があります。下記をお試しください。

1. 点火プラグキャップを外す
2. 点火プラグを外す
3. リコイルスターターを数回引きシリンダ内を換気
4. 点火プラグを取付ける
5. 点火プラグキャップを取付ける
6. チョークつまみを右（開）にする
7. 燃料コックを「ON」にする
8. エンジンスイッチ「ON」にする
9. リコイルスターターを軽く引き、重く感じたところで一旦止め、ハンドルを一度戻してから、素早く引くとエンジンがかかります。

運転操作の仕方 (HG-GS-15SFEの場合)

運転操作の仕方 (HG-GS-15SFEの場合)



警告



禁止

- 燃料を補給した場所でエンジンを始動しないでください。
- 換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
- ホッパー（投入口）に何も入っていないことを確認してください。
- エンジン始動と同時に刃が動きますので注意してください。
- エンジン始動と同時に排出口からチップが排出されることがありますので注意してください。
- エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどをすることがありますので高温部に触れないでください。



強制

- 回転している部分の近くに顔を近づけたり、手または足を入れないでください。
- 平坦な場所で作業を行ってください。
- エンジン始動後、異常を感じたり、予測される場合はすぐにエンジンを停止してください。
- 本機から離れるときは必ずエンジンを停止してください。
- 少しの移動でもエンジンを停止してください。



注意

エンジンを始動するときは、周囲に人や動物がいないことを確認してください。

運転操作の仕方 (HG-GS-15SFEの場合)

エンジンのかけ方

出荷時には燃料、エンジンオイル、油圧オイルは入っていません。給油後に操作をしてください。

■セルスターターでかける場合

1

アクセルレバーを、「うさぎマーク」と「かめマーク」の中間にします。



2

チョークつまみを左いっぱい（閉）にし、燃料コックを右いっぱい（ON）にします。



3

セルスターターのキーを「ON」にします。



4

さらに、START 位置にすることでエンジンがかかります。



■リコイルスターターでかける場合

1

アクセルレバーを、「うさぎマーク」と「かめマーク」の中間にします。



2

チョークつまみを左いっぱい（閉）にし、燃料コックを右いっぱい（ON）にします。



3

セルスターターのキーを「ON」の位置にします。



4

本機をしっかりと保持し、リコイルスターターロープを引きます。
※ロープを引き出すと止まる位置があるので、そこから素早く引きます。
おおよそ60～70cm引きます。（ロープは一杯に引きすぎらないでください。）引きが少ないとエンジンはかかりません。



 注意

何度もチョークを閉じたままリコイルスターターロープを引くと、点火プラグを濡らしてしまいます。

万が一、濡らしてしまった場合は、「困ったときの対処方法（点火プラグの点検）」をご覧ください。



リコイルの引き方ポイント



- ①良い例：約70cm 引いている所。
- ②良い例：穴に対してロープが真っ直ぐ。
- ③悪い例：抵抗がありエンジンがかかりにくく、ロープが摩擦で切れます。

■エンジンがかかったら

1

エンジンがかかったらチョークつまみを右（開）に戻します。



2

1～2分程度暖気運転を行い、運転状況を確認します。

3

暖気運転の後、アクセルレバーを「うさぎマーク」左側にします。



4

粉碎作業を行います。（運転操作の仕方「粉碎作業」参照）



- 粉碎作業を行う場合は、高速回転（アクセルレバーを左側）で行ってください。
- 作業を中断するときは、その都度アクセルレバーを右側にしてください。

運転操作の仕方 (HG-GS-15SFEの場合)

エンジンの止め方

1

すぐにエンジンを止めずに空運転を1~2分行い、内部の粉碎カスを排出させます。

2

セルスターターのキーを「OFF」にします。



3

燃料コックを左「OFF」にします。



エンジンがかからない時

緊急停止ボタンや安全バーが解除されていないとエンジンはかかりません。上記確認してもかからない場合は、点火プラグが燃料で濡れている可能性があります。下記をお試しください。

1. 点火プラグキャップを取外す
2. 点火プラグを取外す
3. リコイルスターターを数回引きシリンダ内を換気
4. 点火プラグを取付ける
5. 点火プラグキャップを取付ける
6. チョークつまみを右（開）にする
7. 燃料コックを「ON」にする
8. セルスターターを「ON」にする
9. リコイルスターターを軽く引き、重く感じたところで一旦止め、ハンドルを一度戻してから、素早く引くとエンジンがかかります。

運転操作の仕方

運転操作の仕方



警告



禁止

- 身体の調子が悪い時、判断力に影響するような酒類、薬物を服用して使用しないでください。
- 動作中に回転部分に顔や手足を近づけないでください。
- ご使用時は、使用者から15m 内は危険です、人や動物が入らないようにしてください。
- 夜間、悪天候時、霧の発生時など、視界が良くないときは使用しないでください。
- 足元が滑りやすい、転倒しやすい場所では使用しないでください。
- 作業中に異物に当たったり、異物を吸い込んだ場合には、速やかにエンジンを停止し、回転部が完全に停止してから異物を除去し、刃に異常がないか調べてください。異常があった場合には、完全に補修した後でなければ本機を再始動しないでください。
- 太い枝が食い込んだときは必ずエンジンを停止してから取除いてください。
- 燃料タンク内に燃料を入れたまま運搬、保管しないでください。
- 髪の毛、衣服等を回転部分、摺動部分、投入口、排出口に近づけないでください。
- 金属、石、ビニール等異物を混入させないでください。思わぬ事故や本体の破損を招く恐れがあります。



強制

- 適切な間隔で休憩をとってください。
- 本機から離れるときは、必ずエンジンを停止してください。
- 危険を感じたり、予測される場合も、必ずエンジンをすぐに停止してください。
- 少しの移動でもエンジンを停止し、ハンドルを持って運搬してください。
- 長袖、長ズボンを着用し、すべりにくい靴、手袋、保護メガネ、ヘルメット、防塵マスクなどの作業に適した服装を心掛けてください。
- 長い髪は束ね、帽子やヘルメットでカバーしてください。

運転操作の仕方

緊急停止

枝木が詰まったり、異常を感じたり、異音、白煙などが出た場合には、緊急停止をしてください。
負荷をかけた状態で使用を続けると、詰まりが取除けなくなったり、ベルトが切れたり、最悪故障や火災になる場合がありますので、速やかに緊急停止をしてください。

1

緊急の場合は安全バーを強く押し下げ、エンジンを停止させます。
再度エンジンをかける場合は、安全バーを押し上げ解除してください。



2

緊急の場合は、緊急停止ボタンを押すことでエンジンを停止させることもできます。
再度エンジンをかける場合は、緊急停止ボタンを時計回りに回して解除してください。



3

再始動は、原因を取除くまで行わないでください。

4

再始動は、安全バーを解除、または緊急停止ボタンを解除しないとエンジンはかかりません。

運転操作の仕方

設置について

1

水平で安定した場所に設置してください。
舗装地、砂利、その他硬い地面で使用すると、振動で本体が動き思わぬ事故につながる恐れがあります。

運転操作の仕方

粉碎作業

1

回転方向切替レバーを中央の「ニュートラル」にします。

ニュートラル



2

エンジンを始動し、回転が安定していることを確認します。

3

回転方向切替レバーを押し下げ「正回転」にします。

4

送り力調整レバーで速度の調整をします。

※トルク（材料を送り込むための力）重視のため、3～10までの速度の変化はありません。



0 1 3 10
停止 低速 中速 (※)

5

枝木をホッパー（投入口）へ投入し、粉碎が始まったら素早く手を放します。



枝木を投入する際は、ホッパー（投入口）やシュータ（排出口）の正面に立たないでください。

投入物や粉砕物が飛んでくることがあります。



粉砕するタイミング

粉砕中、エンジンの音をよく聞き、回転が落ちたら投入をやめ、エンジンの回転が高速になったら、投入をします。
連続で投入するとエンジンに負荷がかかります。

6

エンジンの回転を確認します。
回転が著しく落ちたり、ベルトから異臭、異音がしたときは、安全バーまたは緊急停止ボタンを押しエンジンを止めます。



注意

ベルト周辺から白煙、異臭、異音がしている状態で使い続けると、ベルトが切れたり、ベルトから火が出て大変危険です。

運転操作の仕方

粉碎作業終了

1

すぐにエンジンを止めずに空運転を1~2分行い、内部の粉碎カスを排出させます。

2

エンジンスイッチを「OFF」にします。

3

燃料コックを「OFF」にします。

4

ホッパー（投入口）、シュータ（排出口）から粉碎カス等を取除きます。怠ると木クズ等が固着し、取りづらくなります。

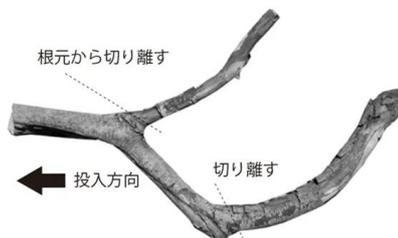
5

軸受け部分にグリスを補給します。（点検・整備の仕方「グリスの塗布」参照）

運転操作の仕方

粉碎物についての注意事項

- 枝木を一度に押し込み過ぎないでください。ホッパー（投入口）に詰ることがあります。
- 根がついた木は粉碎しないでください。
- 土がついた木は粉碎しないでください。
- 濡れている草や木は、粉碎しないでください。また、乾きすぎた木は粉碎時飛散し、ホッパー/サイドホッパー（投入口）から飛びたすことがあるので粉碎しないでください。
- 太い枝がついている樹木は、詰りの原因になります。太い枝は根元から切り離して投入してください。



運転中にホッパー（投入口）を覗き込むことは危険です。絶対しないでください。



- ・直径121mm以上の太い枝・竹等は粉碎できず、詰まりの原因になります。
- ・120mm以下でも、硬さ、曲がり具合等によっては粉碎できずに詰まる場合があります。
- ・釘やビスが刺さった木材等は、必ず釘やビスを抜いてから粉碎してください。そのまま粉碎しますと刃こぼれを起こします。
- ・小石などが食い込んだ木材等は、必ず小石などを抜いてから粉碎してください。
- ・そのまま粉碎しますと刃こぼれを起こします。

運転操作の仕方

枝木が詰まった時



- ・ エンジンは必ず切って行ってください。
- ・ 素手で詰まりを取除くことは、絶対に行わないでください。

1

緊急停止ボタンを押すか、または安全バーを押し下げエンジンを停止させます。

2

回転方向切替レバーを「正回転」から「ニュートラル」にします。

3

緊急停止ボタン、または安全バーを解除します。

4

再度エンジンをかけ、回転方向切替レバーを上げ「逆回転」にします。

逆回転



5

詰まった枝木が出てきますので、慎重に取除きます。

●上記の方法でも取除けない場合は、下記をお試しください。エンジンは停止したままで行ってください。

1

上部カバーを固定しているナットを緩めます。



2

ボルトを倒します。



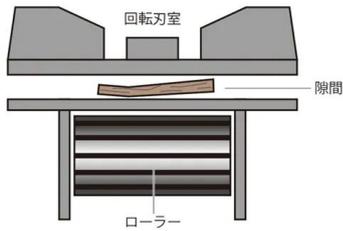
3

カバーを開けます。



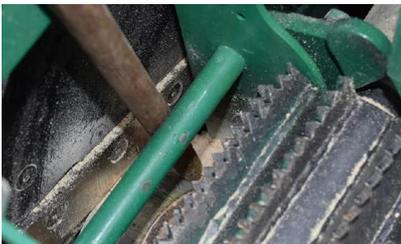
4

回転刃室とローラーの隙間に詰まりがないかも確認します。



5

棒などを使いローラーに詰まった枝木を慎重に取除きます。



6

取除きが完了したら上部フタを確実に閉めてください。フタを閉めないで安全装置が働きエンジンがかかりません。

●上記の方法でも取除けない場合は、点検・整備の仕方「枝木が詰まった時」の方法をお試しください。

運転操作の仕方

移動の仕方

1

短い距離の移動であれば、タワーヒッチ部を持ち上げ移動させます。



- ・ 不安定な場所での移動は行わないでください。本機が転倒し大変危険です。
- ・ 段差を乗り越えるような移動は行わないでください。本機が転倒し大変危険です。
- ・ 移動は1人では行わないでください。

2

タワーヒッチを牽引車に取付け、移動させることもできます。ヒッチボールのサイズは2インチ（50mm）に対応しています。
※公道は走れません。



点検・整備の仕方

点検・整備の仕方



警告

- ・作業場の清潔、安全を常に確保してください。足を引っかける一切の障害物を撤去してください。
- ・粉砕機の作業場には必ず清潔、安全を守ってください。草や木材、燃料など燃えやすい物は必ず離して保管してください。
- ・点検整備をするときは、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- ・作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめてください。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願いします。
- ・本体は水平な場所に設置し、作業を行ってください。
- ・作業は、十分な採光のもとで作業してください。
- ・排気ガスには十分に注意し、換気の良い場所で行ってください。
- ・火気を近づけないでください。
- ・作業には工具を使用することがあります。必ず用途やサイズの合ったものを使用し自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行ってください。
- ・点検整備後は、すべての部品を確実に取付けたことを確認してください。
- ・点検整備後は、汚れが付着しない場所かカバーなどをかぶせて保管ください。

対象部品	点検項目	運転前の点検	初回の1ヶ月後または20時間運転後	3ヶ月毎または50時間運転毎	6ヶ月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転毎	掲載ページ
燃料	ガソリン量 漏れ	●					運転前の点検「燃料の点検・補充」
エンジンオイル	オイル量	●					運転前の点検「エンジンオイルの点検」
	交換		●	●			点検・整備の仕方「エンジンオイルの交換・補充」
油圧オイル	オイル量	●					運転前の点検「油圧オイルの点検」
	交換				● 1年毎または100時間運転毎		点検・整備の仕方「油圧オイルの交換・補充」
エアクリナー	清掃			●			点検・整備の仕方「エアクリナーの清掃・交換」
	交換					●	点検・整備の仕方「エアクリナーの清掃・交換」
点火プラグ	清掃				●		点検・整備の仕方「点火プラグの点検・清掃」
	交換					●	「困ったときの対処方法（点火プラグの点検）」

点検・整備の仕方

燃料の抜き方



- ・ 緩めたボルトは、必ずしっかり締めてください。ガソリンが漏れると引火の危険があります。
- ・ こぼれたガソリンは布などで、直ちに拭取ってください。

1

廃油受けを準備します。

2

燃料タンクのキャップを取外し、タンク内の燃料を手動のポンプ等で抜きます。



3

燃料コックを「ON」にします。

4

○部分のボルトを10mmのスパナで緩めて、燃料を廃油受けに受けます。



奥のボルトは絶対に緩めないでください。

5

燃料を抜き終わったら、緩めたボルトは、必ずしっかり締めてください。

点検・整備の仕方

エンジンオイルの交換・補充

【エンジンオイルの交換】

エンジンオイルは、初回20時間、以降50時間毎に行ってください。

■エンジンオイル交換の手順

推奨オイル	4 ストロークガソリンエンジン専用 100%化学合成油SAE10W-30 ・寒冷地は5W-30
オイル容量	1.1L

1

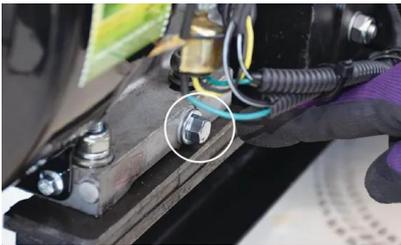
廃油受けを準備します。

2

本機を水平な場所で水平な状態にします。

3

廃油受けをドレンボルトの下に置き、ボルトを取外してオイルを抜きます。その際、オイル給油キャップを取外すと抜けやすくなります。



4

排出が終わりましたら、ドレンボルトを確実に締めます。

5

新しいエンジンオイルをレベルゲージの中央まで入れます。



6

給油後は、確実にキャップを閉めます。

点検・整備の仕方

油圧オイルの交換・補充

油圧オイル（作動油）は、100時間毎か、または1年に1回行ってください。

1

廃油受け（4L以上入るもの）、手動式ポンプを準備します。

2

オイルキャップを取外します。



3

六角レンチで4カ所の六角ボルトを取外し、フィルタを取外します。



4

手動式のポンプをご用意し、オイルを抜きます。



5

または、ドレンボルトを取外してオイルを抜きます。



6

排出が終わりましたら、ドレンボルトを確実に締めます。

7

フィルタを戻し、新しい油圧オイル（作動油）を入れます。（オイルゲージで量を確認）



使用作動油	ハイドロリックオイル 油圧用オイル32番
オイル容量	4.0L

点検・整備の仕方

エアクリーナーの清掃・交換

エアクリーナーのフィルタを清掃します。

1

エアクリーナーカバーの蝶ネジを取外し、カバーを取外します。



2

エアフィルタの汚れをエアブローア等で吹き飛ばします。
汚れがひどい場合は、エアフィルタの交換が必要になります。



3

取外しと反対の手順で取付けます。

点検・整備の仕方

グリスの塗布

本機の使用後は各部を清掃し、軸受け部分やシャフトにグリスを補給します。

1

モリブデングリス、グリス注入器を準備します。

2

側面のカバーを取外します。



3

グリスキャップを外します。



4

ニップルの先端を拭いてから、ノズルに接続しグリスを注入します。



5

注入が終わったらキャップを閉めます。

点検・整備の仕方

点火プラグの点検・清掃

点火プラグを取外し、電極の点検・清掃を行います。
清掃を行っても点火しない場合は、点火プラグの交換が必要です。

■使用工具：プラグレンチ（付属）、ワイヤブラシ

適応点火プラグ	BPR7ES(NGK)
---------	-------------

1

点火プラグキャップを取外し、点火プラグをプラグレンチで取外します。



⚠ 注意

必ず点火プラグキャップ（金属部）を持ち引抜いてください。コードを持って引っ張るとコードが破損する恐れがあります。

2

点火プラグをワイヤブラシで清掃します。



3

取外しと反対の手順で取付けます。

※点火プラグは、点火プラグキャップにしっかりとめ込んでください。はめ込みがあまりいと点火しません。

点検・整備の仕方

刃の交換

刃が切れなくなると、本機に負荷がかかったり、枝木が詰まる原因になりますので、交換が必要です。

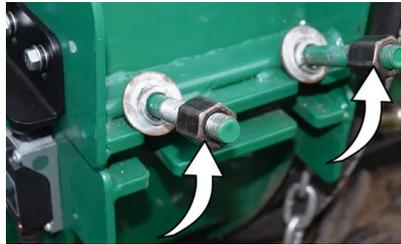


- ・ 刃の取扱いには、十分ご注意ください。
- ・ 刃の交換時には、刃が回転しないようにしてください。
- ・ 刃の交換は、素手では絶対に行わないでください。

●三角刃の交換

1

回転刃室カバーのナット（19mm）を緩め、ロックを解除します。



2

回転刃室カバー上部のボルト（17mm）を取外します。



3

回転刃室カバーをゆっくり開きます。



4

写真左側の六角ボルトには緩み止め剤を施していますので、ヒートガンなどで熱を加えて溶かします。右側の六角ボルトを六角レンチで固定し、左側の六角ボルトを慎重に取外します。



5

六角ボルトを引抜く際は、三角刃やカラーが下に落ちないように手を添えながら慎重に行います。



6

片手で三角刃やカラーが下に落ちないように手を添えながら慎重にシャフトを引抜きます。



7

新しい三角刃を 逆の手順で取付けます。



8

六角ボルトに緩み防止剤を薄く塗り取付けます。

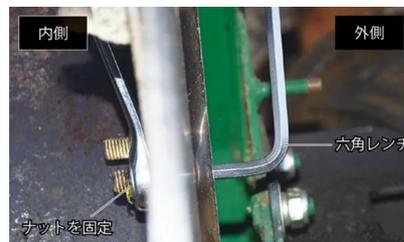
●チップナーナイフの交換

 警告

- チッパーナイフはとてつ鋭利です。取扱いは、十分ご注意ください。
- 刃の交換時には、刃が回転しないようにしてください。
- 刃の交換は、素手では絶対に行わないでください。

1

内側のナットを固定しながら、外側の六角ボルトを回し取外します。(3カ所)



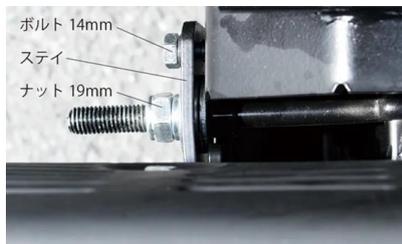
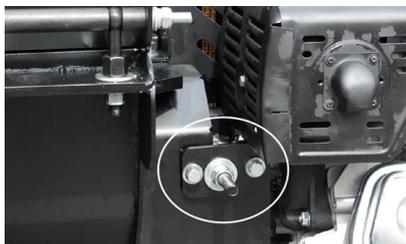
点検・整備の仕方

回転刃ベルトの張りの調整

使用していくうちにベルトが伸びます。その場合は張りの調整をします。

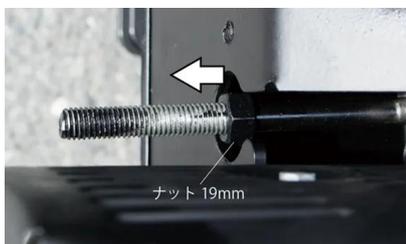
1

写真で見えているボルト、ワッシャ、ナット、ステイを外します。



2

ナットを緩めます。大きく緩めると張りが強くなります。



3

内側のナットを緩めた状態でステイを取付け、左右のボルトを締付け、中央のナットを締付けることでベルトが押され、張りが復活します。



4

ベルトの張り具合を確認しながら行う場合は、ベルトカバーを外して行います。

5

ベルトカバーを止めている3カ所のボルトを外し、ベルトカバーを取外します。



点検・整備の仕方

回転刃ベルトの交換

ベルトの張り、亀裂、摩耗を確認し、不具合があった場合は、新しいベルトに交換します。

1

ベルトカバーを止めている3カ所のボルトを取外し、ベルトカバーを取外します。



2

ベルトカバーを引抜くとベルトが見えます。



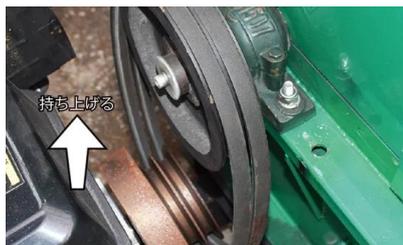
3

エンジンを固定している左右4カ所のボルト、ナットを取外します。



4

エンジンのベルト側を少し持ち上げると、ベルトが緩み外れます。



5

新しいベルトを交換したら、取外しと逆の手順で取付けます。

6

ベルトの張りを調整します。(点検・整備の仕方「回転刃ベルトの張りの調整」参照)

点検・整備の仕方

遠心クラッチの点検

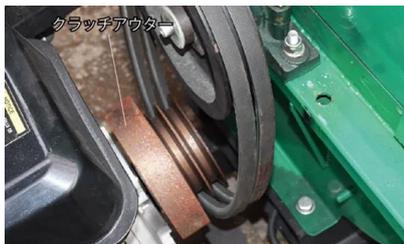
刃の回転速度が遅くなったり、枝木が詰まりやすくなったら点検を行います。また、ベルト交換時にも点検を行ってください。

1

ベルトカバーを開けます。

2

クラッチシューの減り具合を小型のミラーなどを使用し確認します。矢印が指し示したところまで摩耗したら交換時期です。



クラッチシュー



※写真は別機種です

点検・整備の仕方

油圧ポンプのベルト交換

ベルトの張り、亀裂、摩耗を確認し、不具合があった場合は、新しいベルトに交換します。

1

側面カバーを取外します。



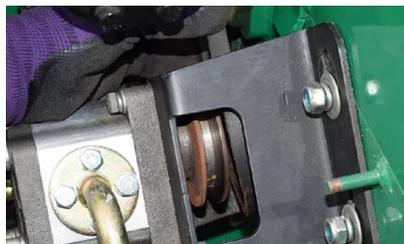
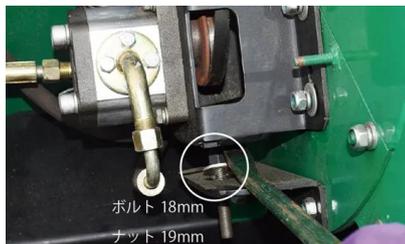
2

油圧ポンプステイのナット3カ所を緩めます。



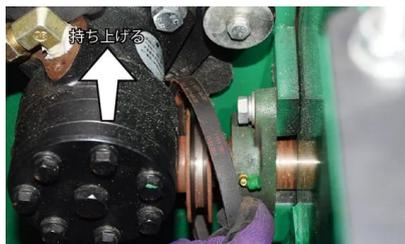
3

テンションボルトを緩め、バールなどで油圧ポンプステイを持ち上げるとベルトが緩み外れます。



4

ローラー軸部分を持ち上げると隙間ができ、上側のベルトが外れやすくなります。
※ローラー軸はスプリングでテンションがかかっているため、簡単に持ち上がります。



新しいベルトを交換したら、取外しと逆の手順で取付けます。

点検・整備の仕方

枝木が詰まった時



- ・ エンジンは必ず切って行ってください。
- ・ 素手で詰まりを取除くことは、絶対に行わないでください。

1

回転刃室カバーのナット（19mm）を緩め、ロックを解除します。



2

回転刃室カバー上部のボルト（17mm）を取外します。



3

上部カバーをゆっくり開きます。



4

刃が枝木等に食い込んでいたら、棒等で刃を反時計回りに少し回し食い込みを外します。



5

ローラー固定ボルト、スプリング固定ボルトを取外します。



6

ホッパー（投入口）を開け、ローラーをバール等で持ち上げながら、枝木等を引っ張り出します。



点検・整備の仕方

タイヤの点検

25時間使用ごとに、タイヤの空気圧の点検を行います。

1

目視にて破損や亀裂が無いかを確認します。
パンク、亀裂が見つかった場合は、修理または新品と交換してください。

2

タイヤの空気圧を確認します。
空気圧は0.28-0.7kgf/cm² (28-70kPa)、最大1.68kgf/cm² (168kPa) になります。



長期間使用しない時

粉碎機を長期に渡り使用しないときは、次のお手入れを行ってください。

1

保管するときは、平坦で堅い地面に水平に置てください。

2

燃料タンク、キャブレターの燃料を抜きます。（点検・整備の仕方「燃料の抜き方」参照）

3

エンジンをかけ、燃料切れで停止するまで回し、キャブレター内の燃料を使い切ります。

4

エンジンスイッチを「OFF」にしてください。

5

点火プラグキャップを取外します。

6

チョークつまみを右（開）にします。

7

湿気やホコリが少なく、子供の手が届かない場所に保管してください。

困ったときの対処法

●エンジンがかからない

症状	原因	対処
点火プラグに火花が出ていない	点火プラグ不良	交換（点検・整備の仕方「点火プラグの点検・清掃」参照）
	点火プラグキャップ接続不良	調整（点検・整備の仕方「点火プラグの点検・清掃」参照）
	イグニッションコイルの不良	交換
	エンジンオイルが少ない、入っていない	確認（運転前の点検「エンジンオイルの点検」参照）
エンジンがかからない	エンジンオイルの入れすぎ	オイルを抜く（点検・整備の仕方「エンジンオイルの交換・補充」参照）
	エンジンオイルが少ない	オイルを補充（点検・整備の仕方「エンジンオイルの交換・補充」参照）
	回転刃室カバーが開いている	閉める
	緊急停止ボタン、安全バーが押されたまま	解除する（取扱い「安全装置」参照）
キャブレターに燃料が来ていない	燃料が入っていない	燃料を入れる（運転前の点検「燃料の点検・補充」参照）
	燃料ホースの詰まり、漏れ	ホース清掃、交換 交換、フィルタ清掃
	燃料タンク錆びまたは、異物混入による詰まり	
キャブレターに燃料は来ているが、エンジン内に燃料が来ていない	キャブレター詰まり （ニードル・バルブ固着）	キャブレター分解掃除

●エンジンがかかるが、すぐ停止したり、停止しそうになる

症状	原因	対処
エンジンがかかるが、すぐ停止したり、停止しそうになる	エアフィルタの汚れ（白煙が出る）	清掃または交換（点検・整備の仕方「エアクリナーの清掃・交換」参照）
	オイルの入れすぎ	オイル交換（点検・整備の仕方「エンジンオイルの交換・補充」参照）
	オイルにガソリンが混ざっている	オイル交換（点検・整備の仕方「エンジンオイルの交換・補充」参照）

●エンジンの回転が高い

症状	原因	対処
エンジンの回転が高い	ベルトの緩み	張りの調整（点検・整備の仕方「回転刃ベルトの張りの調整」参照）
	ベルトの摩耗・切れ	交換（点検・整備の仕方「回転刃ベルトの交換」参照）
	遠心クラッチの破損	交換（点検・整備の仕方「遠心クラッチの点検」参照）

●ベルト周辺から煙や火が出た

症状	原因	対処
ベルト周辺から 煙や火が出た	枝木が詰まりベルトに異常な負荷がかかっている	詰まりを取除く（運転操作の仕方「枝木が詰まった時」参照）
		ベルトの交換（点検・整備の仕方「回転刃ベルトの交換」参照）

●粉碎ができない

症状	原因	対処
刃が回転しない	枝木の詰まり	取除く（運転操作の仕方「枝木が詰まった時」参照）
	竹がドラムに巻き付いて詰まっている	取除く（運転操作の仕方「枝木が詰まった時」参照）
	ベルトが摩耗し滑っているか切れている	ベルトの交換（点検・整備の仕方「回転刃ベルトの交換」参照）
	クラッチが摩耗・破損している	クラッチの交換（点検・整備の仕方「遠心クラッチの点検」参照）
刃の問題	刃が欠けている	刃の交換（点検・整備の仕方「回転刃ベルトの交換」参照）

困ったときの対処法（点火プラグの点検）

点火プラグの点検 ※機種により、プラグの位置、プラグキャップやリコイルの形状等異なります。ご了承ください。

①プラグキャップを外し、付属のプラグレンチでプラグを外し、先端を確認します。



付属のプラグレンチで反時計回りに外します。振動等で緩まないよう少し固めに締め付けています。

先端が濡れている

燃料で濡れているため布等でよく拭きます。



リコイルスターターロープを引いて（15～20回）、プラグ穴から燃料が出てこないか確認し、出てきたらよく拭き取ります。

※「先端が濡れていない」に進みます。

先端は濡れていない

②外したプラグをキャップに取付けます。



③スイッチをONにします。

④プラグ先端をエンジン金属部に当てながら、リコイルスターターを引きます。





火花が出る

プラグに異常はありません。プラグ先端の濡れは燃料の行き過ぎで起こります。
再度エンジンをかけ、確認ください。それでもかからない場合は、他の原因が考えられます。

火花が出ない

エンジンオイル不足かプラグの不良か他の原因が考えられます。
購入先にお問い合わせください。

保証内容について

2025.10 現在

本規約は、ハイガー（以下「弊社」とする）を経由して販売させていただいた該当商品に関して保証する内容を明記したものです。弊社商品には商品保証書等は同梱しておりません。お客様の購入履歴や保証情報は弊社にて管理・保管しておりますのでご安心ください。返送いただく場合商品を再梱包していただく必要がございますので、梱包材はお捨てにならないようお願いいたします。

1. 保証の期間

商品発送日（ご来店引取の場合ご来店日）から1年間といたします。業務用・営業用として使用される場合、保証期間は6ヵ月といたします。保証期間を超過しているものについては、保証の対象外となり有償対応となります。

商品発送日より7日以内の初期不良にあたる場合、送料・手数料弊社負担にて対応いたします。

2. 保証の適用

- ・お買い上げいただいた弊社商品を構成する各部品に、材料または製造上の不具合が発生した場合、本規約に従い無料で修理いたします。（以下、この無料修理を「保証修理」とする）往復送料や出張修理を行った場合の出張料は、お客様のご負担となります。
- ・保証修理は、部品の交換あるいは補修により行います。保証修理で取り外した部品は弊社の所有となります。
- ・本規約は、第一購入者のみに有効であり、譲渡することはできません。ご購入された年月日、販売店、商品、製造番号の特定ができない場合、保証が受けられない可能性があります。
- ・本規約の対象となる商品とは、日本国内で使用し故障した商品とします。日本国外に持ち出した時点で保証は無効となります。

3. 保証適用外の事項

- (1) 純正部品あるいは弊社が使用を認めている部品・油脂類以外の使用により生じた不具合
- (2) 保守整備の不備、保管上の不備により生じた不具合
- (3) 一般と異なる使用場所や使用方法、また酷使により生じた不具合
- (4) 取扱説明書と異なる使用方法により生じた不具合
- (5) 示された出力や時間の限度を超える使用により生じた不具合
- (6) 弊社が認めていない改造をされたもの
- (7) 地震、台風、水害等の天災により生じたもの
- (8) 注意を怠った結果に起きたもの
- (9) 薬品、雨、雹、氷、石、塩分等による外から受ける要因によるもの
- (10) 使用で生じる消耗や時間の経過で変化する現象（退色、塗装割れ、傷、腐食、錆、樹脂部品の破損や劣化等）
- (11) 機能上影響のない感覚的な現象（音、振動、オイルのにじみ等）
- (12) 弊社または弊社が認めているサービス店以外にて修理をされた商品
- (13) 使用することで消耗する部品または劣化する部品（ゴムを使用する部品、皮を使用する部品、樹脂を使用する部品、スポンジ類、紙類、パッキン類、ギヤ・ベアリング等の干渉する部品、ボルト、ナット、ヒューズ、モーターブラジ、チェーン、バルブ内部の部品、パネ、潤滑油、燃料、作動油、刃または先端部品、クラッチ、シャーピン等の緩衝部品、ワイヤ、バッテリー、点火プラグ等）
- (14) 保証修理以外の、調整・清掃・点検・消耗部品交換作業等
- (15) 商品を使用できなかったことによる損失の補填（休業補償、商業損失の補償、盗難、紛失等）

4. 別扱いの保証

部品メーカーが個別に保証している部品については部品メーカーの保証が適用されます。

5. 保証修理の受け方

まずはお問い合わせフォームにて弊社へご連絡ください。
またはお近くの修理協力店へご連絡をしてください。
症状・使用状況を伺い、手続方法をご案内させていただきます。

6. 注意事項

- ・動作点検を行ってから出荷しておりますので、燃料やオイル、水分が残っていたり、多少の傷や汚れ等が付いている場合があります。
- ・部品の在庫がない場合、お取り寄せにお時間をいただくことがあります。
- ・仕様変更などにより同時交換部品が発生する可能性があります。
- ・仕様変更などによりアッセンブリーでの供給しかできない場合があります。
- ・生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合があります。
- ・無在庫転売者（送り先が毎回違う購入者）の場合、転売者より購入した商品の場合、保証は無効となります。また発覚次第転売者への措置を取らせていただきます。

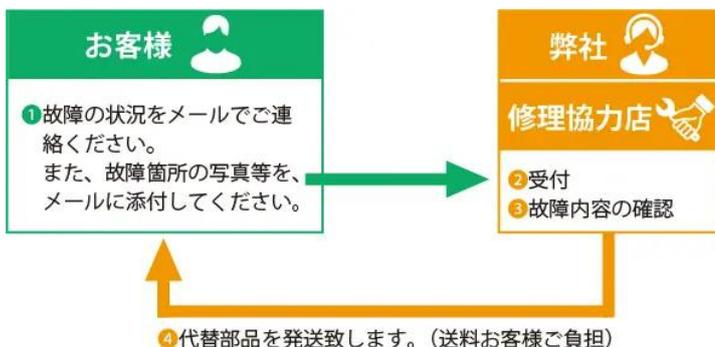
■アフターサービスについて■

1. 販売機種が対象となります。※弊社で商品をお買い上げの方に限らせていただいております。
2. 生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合があります。
3. 保証期間（1年間）を過ぎたものは、保証期間内におけるご使用回数に関係なく、すべて有償となります。
4. 修理の際の往復の送料はすべてお客様ご負担となります。
5. 修理協力店へご依頼の際は、直接修理協力店に修理代をお支払いください。

お客様ご相談窓口

故障部品をお客様で交換される場合

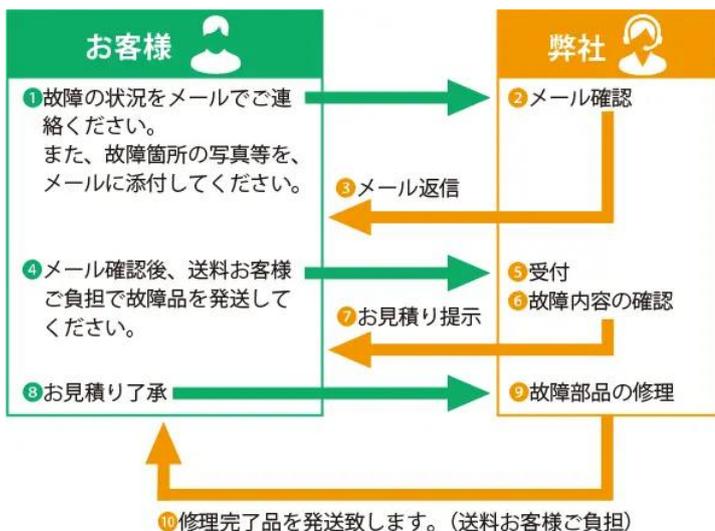
弊社にメールにてご連絡頂くかお近くの修理協力店にご連絡ください。
保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。
その際に生じる**往復の送料は全てお客様のご負担**となります。



故障部品を弊社で修理する場合

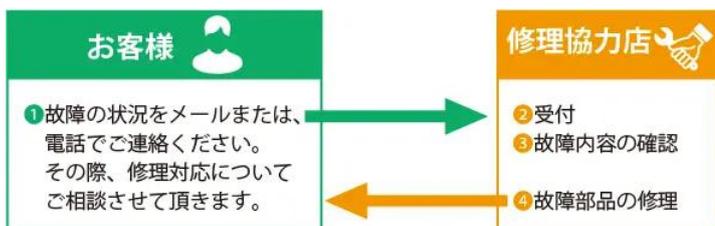
弊社にご連絡ください。
保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。
その際に生じる**往復の送料、また修理工賃は全てお客様のご負担**となります。

修理依頼されるときは、メールにて下記事項をご連絡ください。
・ご注文番号・商品名・商品の型番・故障の状況・購入サイト・購入年月日・お名前・ご住所・電話番号



故障部品を修理協力店で修理する場合

お近くの修理協力店にご連絡ください。
保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。
その際に生じる**往復の送料、また修理工賃は全てお客様のご負担**となります。
遠方の場合の出張修理や引取り修理は、別途料金が発生致します。



■保証適用について■
まず、ご購入された店舗にご連絡をしてください。

保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。
その際に生じる往復の送料は全てお客様のご負担となります。

- ・本商品が対象となります。
- ※ただし、以下の場合は保証適用外となります。
- ・お客様のメンテナンス・確認不足等によるもの。
- ・人為的による破損等。
- ・運送会社など、第三者により生じた支障。
- ・弊社が故意・過失・他、正常のご使用に反して生じたと判断する全ての支障。

■初期不良について■

- ・初期不良期間は、ご使用回数に関係なく商品発送日より7日以内とさせていただきます。
- ・商品受領後、1週間以内にご連絡ください。
- ※無償修理又は無償交換のいずれかを弊社判断にて、ご対応させていただきます。
- ・修理協力店にご依頼の際は、修理工賃・部品代・送料は当社が負担させていただきます。

■消耗品について■

- ・消耗品につきましては、初期不良以外はすべて有償となります。

■保証期間について■

◎詳細は「保証内容について」ページをご確認ください。

- ・商品が出荷された日・お渡し（ご来店時）から1年間となります。業務用として使用される場合、保証期間は6ヶ月といたします。

修理、部品に関するご相談

修理依頼される時は、下記事項ご連絡ください。

- ①ご注文番号
- ②商品名
- ③商品の型番
- ④故障の状況
- ⑤購入サイト、年月日
- ⑥お名前
- ⑦ご住所
- ⑧電話番号

修理、使い方などのご連絡窓口

お手数ですが、今一度本取扱説明書を熟読し、弊社のサイトや動画等を見ていただき、問題が解決しない場合は、下記までお問い合わせください。

修理やご相談は本社カスタマー・サポート・センターまでお願い致します。

受付は年中無休ですが、メールのご返信は平日のみとなります。
また、内容によってはお調べするのに数日要する場合があります。
ご了承ください。
本社カスタマー・サポート・センター→<https://haige.jp/c/>

修理協力店

修理店により修理対応機械が異なりますので、最新情報は下記サイトをご覧ください。

本店サイト▶

<https://www.haigeshop.net/html/page3.html>

楽天サイト▶

<https://www.rakuten.ne.jp/gold/haige/support/repair/shop/>

ヤフーサイト▶

<https://shopping.geocities.jp/haige/after.html>

カスタマー・サポート

「製品のお困り事」は、カスタマー・サポート・センターへ。

「製品が利用できない」、「故障かな?」、「修理をしたい」、「パーツを購入したい」など、下記カスタマー・サポート・センターへ、お問い合わせください。

カスタマー・サポート・センターお問い合わせ窓口▶

<https://haige.jp/c/>

